

中期目標の達成状況報告書

平成20年6月

佐賀大学

目 次

I. 法人の特徴	1
II. 中期目標ごとの自己評価	4
1 教育に関する目標	4
2 研究に関する目標	179
3 社会との連携, 国際交流等に関する目標	225

I 法人の特徴

1. 沿革と構成

本学は、平成15年10月に旧佐賀大学と旧佐賀医科大学が統合して新たに佐賀大学として発足し、平成16年4月、国立大学法人佐賀大学として再出発した。

前身である旧佐賀大学は、昭和24年佐賀高等学校、佐賀師範学校及び佐賀青年師範学校を母体に、文理学部と教育学部からなる新制佐賀大学として設置された。その後、昭和30年には農学部が、昭和41年には理工学部及び経済学部がそれぞれ設置され、統合前には、文化教育学部（平成8年に教育学部を改組）、経済学部、理工学部及び農学部の4学部・4研究科で構成されていた。

一方、旧佐賀医科大学は、政府の医師不足解消及び無医大県解消政策の一環として昭和51年に医学科のみの単科大学として発足したが、平成5年には看護学科が設置され、1学部・1研究科の構成になっていた。

現在の佐賀大学は、右のように5学部・5研究科を備えた総合大学の構成で、佐賀市内のJR佐賀駅を挟んだ南北に約7Km離れた位置に、旧佐賀大学を継承した本庄キャンパスと医学部・医学部附属病院が所在する鍋島キャンパスの2キャンパスからなり、学部学生約6,400人、大学院生約1,000人が勉学に励んでいる。また、佐賀市内に文化教育学部附属の4学校園があり、合計約1,300人の児童・生徒が学んでいる。大学の運営・教育研究を支える役員・教職員数は約1,700名である。

2. 理念

本学は、佐賀県内で唯一の国立大学として、国立大学法人法第1条に示す国立大学の設置目的「大学の教育研究に対する国民の要請にこたえるとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展に寄与する」の使命を果たすため、本学の基本理念として、次のように佐賀大学憲章を宣言している。

国立大学法人 佐賀大学 の構成

大学の構成

- ・学部
 - 文化教育学部，経済学部，医学部，理工学部，農学部
- ・研究科
 - 教育学研究科（修士課程）
 - 経済学研究科（修士課程）
 - 医学系研究科（修士課程・博士課程）
 - 工学系研究科（博士前期課程・博士後期課程）
 - 農学研究科（修士課程・博士課程連合大学院）
- ・附属教育研究施設
 - 附属病院
 - 附属幼稚園，小学校，中学校，特別支援学校
 - 海洋エネルギー研究センター
 - シンクロトン光応用研究センター
 - 低平地研究センター
 - 海浜台地生物環境研究センター
 - 地域学歴史文化研究センター
 - 総合分析実験センター
 - 高等教育開発センター等

学生数及び教職員数 (H20.5.1 現在)

・学部学生	6,425人
・研究科学生	
修士課程・博士前期課程	709人
博士課程・博士後期課程	255人
	(計 7,389人)
・教員(教諭を含む)	775人
・その他の職員	956人
・学長・理事・監事	9人
	(計 1,740人)

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指し、ここに佐賀大学憲章を宣言します。

魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進める

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努める

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くす

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信する

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組む

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献する

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たす

3. 特徴

1) 佐賀の地域において高等教育を担う総合大学

本学は、先に述べた**5学部・5研究科を備えた総合大学**として、佐賀県内はもとより、隣接する福岡、長崎県など九州各地からの入学生が大半（91.5%）を占め、**地域の学生に対して幅広い高等教育を提供**している。特に、佐賀県内の5大学及び放送大学佐賀学習センターとともに「大学コンソーシアム佐賀」を設立（平成19年12月）し、県内の高等教育の普及を図っている。

2) 研究教育拠点を広く地域に展開

佐賀県の各地に研究教育拠点；全国共同利用施設として海洋温度差発電など海洋エネルギーの活用を研究する海洋エネルギー研究センター（伊万里市）、玄海灘海浜台地と浅海域の生物環境を調査研究する海浜台地生物環境研究センター（唐津市）、有明海などの湾海の周辺低平地環境を総合的に研究する低平地研究センター（本庄キャンパス）、「佐賀の大学」を象徴する地域学歴史文化研究センター（本庄キャンパス）、地域医療の教育研究拠点として国立大学で初めての地域医療科学教育研究センター（鍋島キャンパス）を持ち、**地域に密着した研究教育**を進めている。また、シンクロトロン光応用研究センターが、鳥栖市に設置されている佐賀県立九州放射光施設を中心に、九州地区の大学など諸機関と連携して研究教育を進めている。

3) 地域社会との連携

有田焼で有名な有田町と包括的協定を締結し、窯業の技術と経営の両面から教育研究に取り組むほか、小城市、鹿島市、唐津市、佐賀市とも包括的協定を結び、**本学と各地方自治体等との連携**を深めている。また、平成18年8月に設置した佐賀大学産学官連携推進機構を通して、本学の創出した知的財産の**社会への還元**を推進している。

附属病院では、教育実習ならびに卒後臨床研修センターとしての機能に加えて、1日平均約1500人の入院・外来の診療、ハートセンターによる24時間ホットライン、救命救急センターの小児救急電話相談、地域に密着した感染症の医療機関間情報ネットワーク、佐賀在宅・緩和医療ネットワーク、がん診療連携拠点病院としての肝がん検診システムなどを行い、**佐賀県の中核病院としての役割**を果たしている。

また、附属学校園では、佐賀県教育委員会と連携して教育開発や教員研修など、県内の初等・中等教育の向上に取り組んでいる。

4) アジアの知的拠点

本学には全学生の4.4%に相当する323人(平成20年5月1日現在)の留学生在学

し、また本学はアジアを中心として 60 大学，67 学部・専攻と学術交流協定を締結している。歴史的・地理的特性を活かし，アジアの知的拠点として，日本・アジアの視点から国際社会への貢献を目指している。

【参考】 中期目標・計画 前文

統合前の佐賀大学及び佐賀医科大学が取り組んできた教育，研究，地域・社会貢献，国際貢献の諸活動（4 つの使命）を継承するとともに，統合によって生まれる新たな「知の創造」を追究する。（継承と発展）

- 1) 文化教育，経済，医，理工，農の 5 学部を備えた総合大学としての機能を発揮する高等教育のあり方を追究し，教育改革を推進する。（教育先導大学）
- 2) 高度専門職業人の育成並びに国際レベルの総合大学としての研究基盤を整えるとともに，独創的研究や地域の要望に応える研究に対して重点的研究体制を構築する。（研究の高度化）
- 3) 地域に点在する教育・研究施設等との連携により，高等教育機能や知的財産活用機能等を高め，地域・社会に開かれた大学の体制を整備拡大する。（地域貢献）
- 4) 世界各地とりわけアジア地域の大学及び研究機関との交流を深め，教育研究と文化交流の国際化を推進する。（国際貢献）